

## 英語科学習指導案

東広島市立西条中学校

指導者 中村 美智子

- 1 日 時 平成15年11月25日(火) 第5校時(13時40分～14時30分)
- 2 対 象 第1学年2組 マスターコース(男子9名, 女子11名, 計20名)
- 3 単元名 **NEW HORIZON English Course Book 1**(東京書籍) **Unit 8** 旅立ちの日
- 4 単元について

### ○単元観

主人公の由美, 健, マーク, デミが冬休みにオーストラリアへ旅行に行くという設定が **Unit 11** まで続き, この単元は日本を発つまでを扱っている。身近な日常から一歩外に出る場面設定としての海外旅行のストーリーとなっており, 出発当日に朝寝坊してしまったマークと母の対話, 待ち合わせのバス停や空港での対話など, 「いかにもありそう」な場面を通して, ターゲットの文法事項(**Where...?** と応答, **Whose...?** と応答, 人称代名詞の目的格)が効果的に提示されており, いずれも本文中に繰り返し現れる単元となっている。

### ○生徒観

1学年英語科の授業は, 11月より生徒の習熟の程度や各自の希望に応じて, 基礎・基本を確実に習得することを目的にしたマスターコースと, 応用的・発展的練習を取り入れながら学習を進めるトライコースの2つに分かれて少人数学習を始めた。

本学級マスターコースの生徒は, 落ち着いた態度で授業に取り組むことができ, ペア活動をしたリ, 発表したりする態度も前向きである。ただ, 大きな声で発言する, あるいはしっかり声を出して練習するという点がまだ十分できていない。

既習の疑問詞で始まる疑問文には, **What, How many, Which** があり, 前 **Unit 7** では **What time, Who** を学習し **Wh-**疑問文の表現にも慣れてきつつある。しかし, どんな場合にどの疑問詞を使えばよいかなど, 場面を想定して考える力は不足しており, これからの課題である。

### ○指導観

指導に当たっては, 既習事項を授業の始めにくり返し練習しながら, 基本事項を定着させていきたい。また, 少人数クラスという利点を生かして, 英語を使つてのコミュニケーション活動など英語を口にする場を増やすようにし, 授業中にできるだけ全員が発話・発表等できる機会を作りたい。そして, 授業に対して積極的に取り組むクラスの雰囲気大切に, コミュニケーション活動を通して英語に対する理解を深め, 英語を使つてみようという意欲を持たせていきたい。そして, 具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えさせるような活動を仕組み, 考える力を育成する指導の工夫を行いたい。

## 5 単元の目標

- Where...?** の文を使つて, ものがどこにあるか尋ねたり, それに答えたりすることができる。
- Whose...?** の文を使つて, ものの持ち主について尋ねたり, それに答えたりすることができる。
- 人称代名詞の目的格の形・意味・用法を理解し, 表現できる。

6 単元の評価規準

	ア コミュニケーション への関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化につい ての知識・理解
聞 く こ と			①聞いた内容について 正しく内容を聞き取 ることができる。	
話 す こ と	①ペアワークなどにお いて必要に応じて協 力しあっている。 ②学習した英語を使っ て質問したり，答え たりしようとしてい る。	①英語を用いて，相手 に尋ねたり答えたり することができる。		①場面や状況にふさわ しい表現を知ってい る。
読 む こ と	③場面に応じて，工夫 した音読をしようと している。	②正しい強勢，イント ネーション，区切り などを用いて音読で きる。	②英語で書かれた内容 について理解するこ とができる。	
書 く こ と	④読みやすい字で書い たり，わかりやすく ノートにまとめたり している。			②文構造についての知 識がある。

7 指導と評価の計画（全3時間）

次	学 習 内 容（時数）	評 価					評価方法
		関	表	理	知	評価規準	
1	・Where...? の文と応答の用法を理解する ・本文の内容理解，本文の音読 <p.68,p.69> (1)	○	◎		○	・ものがどこにあるか尋ねたり，それに答えたりすることができる。 ・聞いた内容について正しく内容を聞き取ることができる。	観察 ワークシート 観察 後日テスト
2	・Whose...? の文と応答の用法を理解する ・本文の内容理解，本文の音読 <p.70> (1)	○	◎		○	・ものの持ち主について尋ねたり，それに答えたりすることができる。 ・対話の場面や状況に応じて，適切な音読ができる。	観察 ワークシート 観察 後日テスト
3	・人称代名詞の目的格の用法を理解する ・本文の内容理解，本文の音読 <p.71> (1)	○	◎		○	・人について尋ねたり，それに答えたりすることができる。 ・本文の意味を理解しながら，正しく読むことができる。	観察 ワークシート 観察 後日テスト

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- 英文を聞いて，どこに何があるか聞き取ることができる。
- ものがどこにあるか尋ねたり，それに答えたりすることができる。
- ペアワークなどにおいて協力して学習することができる。

(2) 観点別評価規準

- コミュニケーションへの関心・意欲・態度
  - ・ペアワークなどにおいて必要に応じて協力しあっている。(ア①)

◎表現の能力

- ・英語を用いて，相手に尋ねたり答えたりすることができる。(イ①)

○理解の能力

- ・聞いた内容について正しく内容を聞き取ることができる。(ウ①)

○言語や文化についての知識・理解

- ・文構造についての知識がある。(エ②)

(3) 準備物

ピクチャーカード, CDプレーヤー, フラッシュカード, ワークシート,  
小道具 (箱・ボール)

(4) 学習の展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項	評 価 規 準	評 価 方 法
導 入	1 あいさつ 2 新出文の導入 3 本時の目標をつかむ	・導入方法を工夫し, 興味を持たせる。 ・本時の目標が明確になるよう, 提示を工夫する。		
	<b>Let's Master!</b> 「～はどこにあるの?」 「それは～にあるよ。」			
展 開	4 基本文の練習 5 新出語句の導入・発音練習 6 本文を聞き, 内容をつかむ 7 音読練習 8 ペアワーク	・小道具やピクチャーカードを使って, 視覚的にも示しながら口頭練習させる。 ・フラッシュカードを用いて, テンポよく行う。 ・聞き取りの要点を示し, ポイントをつかませるようにする。 ・場面を頭に描きながら, 教師のあとについて読めるようにさせる。 ・本時の目標が達成できるよう, 支援してまわる。	ウ①聞いた内容について正しく内容を聞き取ることができる。  ア①ペアワークなどにおいて必要に応じて協力しあっている。 イ①英語を用いて, 相手に尋ねたり答えたりすることができる。	発表  後日音読テスト  観察
ま と め	9 学習のまとめ 10 自己評価	・基本文をノートに書きとらせ, 本時の学習を振り返らせる。 ・本時の目標, 学習課題にもとづいて, 自己評価を書くよう指示する。	エ②文構造についての知識がある。	ノート  自己評価